



「追いつけ追い越せ、勝負はこれから」

15P

ゲートボールで健康増進
声を想いを

13P

委員会報告
教育制度の方針が先決

10P

町政を問う
高齢者に配慮した椅子

3P

調査特別委員会
アンケート実施



6月 会議

会議は9日から12日に開きました。
提案された議案は、財産取得案1件、条例改正案5件、補正予算案3件を慎重に審議し、原案のとおり可決しました。
ここではその一部を紹介します。

すべて
可決

一般会計補正予算

救急医療負担金802万円

■補正内容

みやぎ県南中核病院の救急医療体制を維持し、町民が安心して救急医療を受診できる環境を確保するため、負担金を計上するものです。

質疑

負担金への判断は
佐藤清隆 議員

問 当町は公立病院を抱え、厳しい経営状況が続いています。仙南地域では負担金を見送る自治体もあるなか、負担に至った経緯は。

答 町長
人口減少が進むなか、地域医療を守るためには中核病院を地域全体で支えることが重要と判断しました。公立病院同士が連携しながら、川崎病院の運営改善にも取り組んでいます。

条例改正

企業誘致を応援

■提案理由

企業誘致の更なる推進を目的に、産業用地の開発事業者に対する助成金制度を加えるため、企業立地応援条例の一部を改正するものです。

質疑

要件は適正な
的場 要議員

問 助成金の要件では工事の着手から3年以内に事業が完了していることとありますが、3年以内にした根拠を伺います。

答 地域振興課長

事業が停滞することによって地域経済への波及効果が期待しにくくなるため、3年以内を条件としました。

財産の取得

教育施設AED更新

■提案理由

小学校等で使用する自動体外式除細動器の仮物品売買契約を締結したので、議会の議決を求めるものです。

■取得物件

自動体外式除細動器(AED)15台

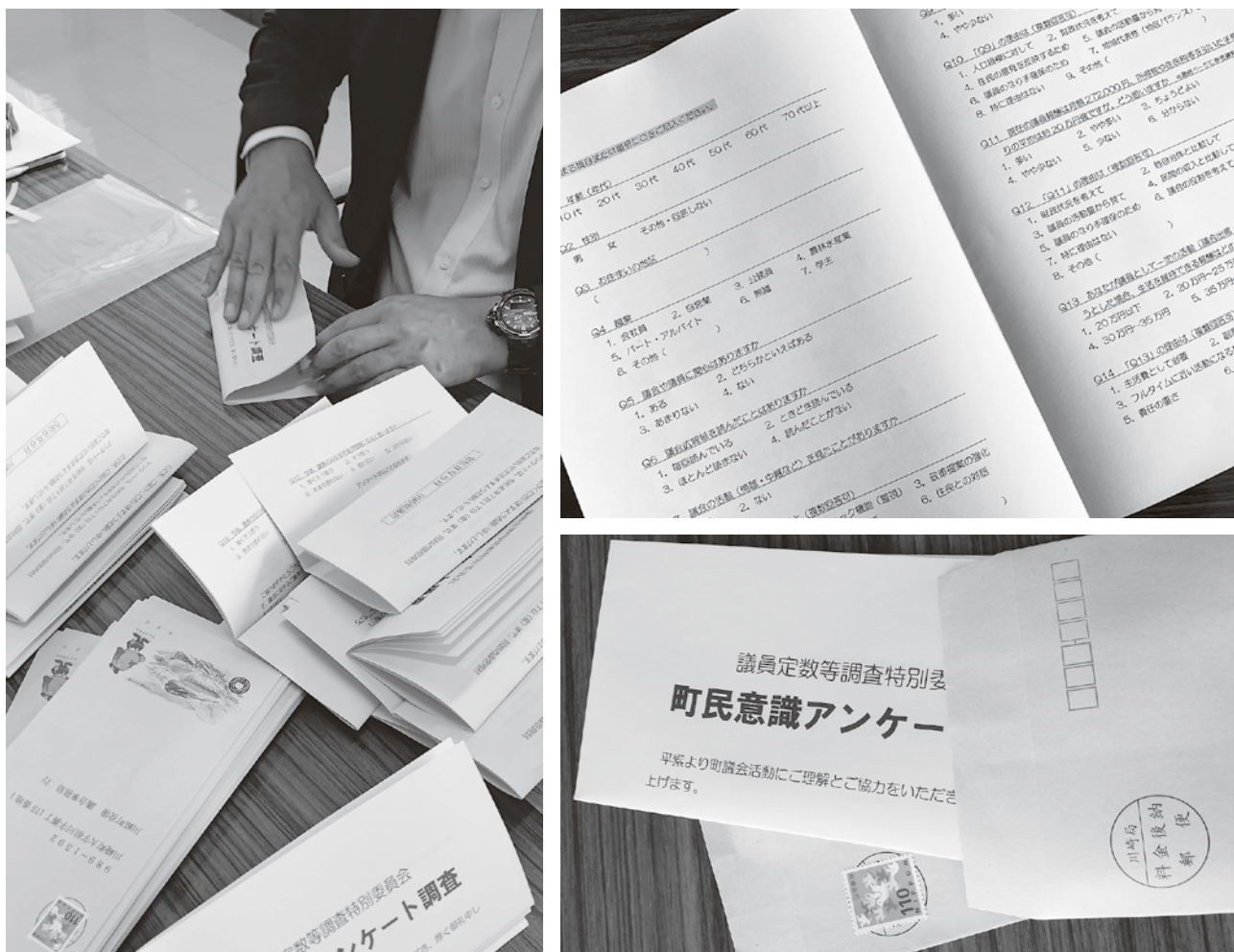
■取得金額

695万4750円



▲安心を継続的に

議員定数等調査特別委員会 「定数と報酬の見直し」アンケート実施



6月中旬に議会改革に関する「町民意識アンケート調査」を発送しました。幅広く意見をいただくために、前回（平成30年350人）よりも対象人数を増やして町民500人に送付したほか、川崎町公式LINEでもアンケートを実施し、現在集計を行っています。

皆さまから寄せられた声を真摯に受け止め、今後の議員定数等調査特別委員会での議論に反映させてまいります。

アンケートの集計結果は次回の議会情報便でお知らせいたします。

住民アンケートへのご協力
ありがとうございました





下斗米 あさこ 議員



近年、自然災害が頻発化・激甚化し、災害と日常的に向き合わなければいけません。現場で自ら判断し動ける「防災士」や、避難所運営の質を左右する「女性防災リーダー」の育成が不可欠と考えます。

答

女性の参画は重要

問

防災リーダーの育成を

問 当町の防災人材の現状はどうなっていますか。

答 町長 災害発生時には全職員で対応しますが、平時の防災担当者は2名です。多様化する災害対応の専門的知識習得や防災経験不足が課題です。



▲防災に女性リーダーの視点を

問 全課に最低1名の防災士を配置することはできませんか。また町民で志のある方に挑戦していただくのはいかがでしょうか。

答 町長 資格取得により基礎知識向上が期待されますが、通常業務との兼ね合いも考慮しながら、必要性を検討します。町民の皆さんにも資格取得で下支えしてほしいと思います。

問 防災体制に女性の視点を取り入れるため女性防災リーダーの育成が必要だと思いますが、見解を伺います。

答 町長 防災活動や避難所運営への女性の参画は重要であると認識しています。防火クラブや民生委員などに協力をしてもらい、女性の意見が反映されるようお願いしていきます。



▲生活習慣の変化に合わせて

問

トイレの洋式化をさらに

答

計画的な修繕を検討

問 健康福祉センターは災害時の福祉避難所となっています。バリアフリー化を含む和式トイレの洋式化を早急に進めるべきと考えますが、見解を伺います。

答 町長 28基のうち和式が5基で、和式トイレしか空いていない状態にはならないと考えています。しかし、いろいろな状況の方々がおられますので、どこまで計画的に直していけるのか、検討していきます。

議会中継スマホで見れます!!



川崎町の公式LINEに登録して町や議会の情報を受け取ろう!



ページ	質問議員	質問内容
5	下斗米麻子 議員	(1) 防災人材の育成を (2) 福祉センターのトイレ改修
6	大本 治久 議員	(1) 婚活支援事業のあり方
7	佐藤 清隆 議員	(1) 「道の駅基本構想」を活かせ
8	的場 要 議員	(1) 本会議等での情報端末活用 (2) 生成 AI 導入
9	佐々木昭雄 議員	(1) 意見書の取り扱い (2) スキー場跡地について
10	佐藤新一郎 議員	(1) 地域集会施設の利便性向上
11	高橋 義則 議員	(1) 小学校建て替え時期について

町政を問う

7人の議員が質問しました

●一般質問とは
町政全般の執行状況をただ質し、施策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。



おおもと はるひさ
大本 治久 議員



問 単発の実施で十分か

答 成果につながる事業へ

少子化・人口減少が進むなか、婚活イベントは出会いや成婚だけでなく、結婚を契機とした定住促進も重要です。地域との関わりや継続的な支援に加え、当町の地域資源を生かした取り組みも必要と考えます。

問 これまで実施してきた婚活イベントの状況と成果は。

問 今回町内で開催した婚活イベントの手応えや課題は。

答 町長 コロナ禍で一時中止していましたが、令和5年度は仙台市で再開し、昨年度は町内で開催しました。過去20回の開催では延べ191人が参加、平均3組のカップルが成立し、7人が成婚しています。

答 町長 町外参加者の送迎や町内飲食施設を活用したことで、参加者からは好評でした。一方、参加人数が限られることや単発開催になりやすいことから、カップルが成立しても成婚につながりにくい点が課題です。



▲町内開催で魅力発信

問 婚活イベントの単発での実施だけでは、成婚や定住につながる十分な効果が期待できないと考えますが。

問 農業や自然体験を取り入れた婚活イベントを検討すべきでは。

答 町長 若い世代の意見も取り入れながら、婚活支援の進め方を模索しています。現時点では試行錯誤が続いています。が、このままではいけないとの認識を持ち、成果につながる事業となるよう改善に取り組んでいます。

答 町長 農業や自然など川崎町ならではの地域資源を生かした体験型の企画は、参加者に町の魅力を知ってもらう機会にもなります。今後の婚活イベントの企画に生かしていきます。



▲体験の場を出会いの場へ

問

バイパス開通を活かせ

答

意見交換を続ける

令和2年3月に道の駅基本構想を策定し、開設に向けて動き出しました。しかし、新型コロナウイルスの蔓延により、経済活動自粛などさまざまな要因から、約2年後に中止を表明しました。

問 計画を中止した当時の判断をどう捉えていますか。

答 町長 コロナ禍やさまざまな意見を総合的に判断し、「町民にとって一番良い選択は中止である」と判断しました。当時の状況から考えると、やむを得なかったと捉えています。



▲蔵王を望むロケーション

問 基本構想では、観光や産業振興のほか、地域連携機能としての役割、防災機能も含んだ複合型と呼ばれる道の駅でした。町内にはこれらを総合的に担う場所は見当たらないと感じますが。

答 町長 道の駅については、すべて諦めたわけではありせん。事業を進めるには多額の財政負担を伴い、慎重に行うべきとの意見もあります。関係者の方々と意見交換を続けながら、検討しなければと考えています。

問 大規模な事業を行う上では、タイミングも重要です。286号墓石・赤石間のバイパス工事は令和11年度に開通が迫っており、アクセスの向上など、このタイミングを好機と捉え、事業を進めるべきではと考えますが。

答 町長 この好機を活かし、移住定住や当町のアピールにつながることを考えます。今ある施設を活かすなど、限られた予算のなかで対応できないか意見交換をしていきます。

問 物価高騰から建設費が上昇しています。しかし、近隣自治体では、これからのまちづくりに必要な事業と判断して、大規模な事業を実施しています。人口減少だからこそ、こういった施設が必要と感じますが。

答 町長 道の駅中止を決定した後、あの予定地周辺では新しいお店など出店しています。競合しない形で新しい展開が可能かも知れ、検討していきます。



さとう きよたか
佐藤 清隆 議員



▲街の玄関口として最適



議員 かなめ 要



問 デジタル化推進へ

答 パソコンを持ち込み確認



▲導入に向けて準備を

全国の町村議会におけるタブレット端末導入は、2024年7月時点で42・2%となっています。当議会ではペーパーレス化や業務の効率化を推進することを目的に、2024年1月よりタブレットを導入しています。

問 今後ペーパーレス化を推進していくためには、執行部でも同様の認識と取り組みが必要だと考えます。本会議等で通信端末を活用していただき、資料作成や情報共有のデジタル化を共に進めていきたいと考えますが。

答 町長

資料への書き込みや複数の資料を同時にしながらの説明など、紙資料の方が利用しやすい場面も多くあります。まずは、パソコンを持ち込みタブレットやデメリットを確認するなどしてデジタル化を推進していきます。

問 生成AI導入を

答 試験運用で検証

生成AIが地方自治体で必要な理由

人手不足や業務の多様化の中でも、住民サービスを向上させるために、生成AIの活用が必要です。

- 1 人手不足への対応 職員数が減少しても、業務を効率よく進められる。
- 2 業務の効率化 文書作成や要約、資料作成などの時間を短縮できる。
- 3 住民サービスの向上 職員が定型業務にかかる時間を減らし、住民対応や相談業務に集中できる。
- 4 働き方改革 残業時間の削減や業務負担の軽減につながる。
- 5 限られた財源を有効活用 少ない予算や人員でも、行政サービスの質を維持・向上できる。

生成AIの活用は、職員の力を支え、住民にとってより良い未来の自治体をつくります。

▲幅広い情報共有に向けて

問 導入に向けてさまざまな準備が必要だと思いますが、現段階で考えられる課題などはありませんか。

答 地域振興課長

生成AIの利用については、機密情報や個人情報への漏えいリスク、出力される情報の正確性の確保、著作権への配慮等になります。また、現在使用中のパソコンのなかには古いものもあり、更新する必要があります。

問 全国的に地方自治体での生成AI※導入が進んでいます。まずは担当課で生成AIについて、業務の効率化や職員負担の軽減の観点から試験運用を実施いただきながら、調査、検討が必要があると考えますが。

答 町長

業務効率化や職員の負担軽減は極めて重要な課題であると認識しています。試験運用を早期に実施し、実際の業務でどのような効率化や負担軽減が図られるか、具体的な数値や事例をもって検証していきます。

※生成AI…指示に応じて文章や画像、音声などの新しいコンテンツを自動で生み出す人口知能技術。

問 二小意見書の取り扱い

答 意見交換を行い進める

昨年11月20日付で教育長宛てに、「二小の統合反対に対する十分な説明がなされていないこと」「町の移住定住政策と矛盾しているのではないか」など、統合に反対する意見書が保護者有志から提出されました。

問 教育委員会として、この意見書をどのように受け止めていますか。

答 教育長

昨年10月の住民説明会では児童数減少の状況に致し方ないと受け止めた方もいたため、意見が少なかつたと感じました。学区再編に対し、すべてに理解を得るのは難しいと受け止めています。



議員 お昭雄 さき 佐々木



▲さまざまな意見を聞きながら

問 今後どのように進めていきますか。

答 教育長

令和10年4月の統合に向けて、保護者や地域の方々との十分な意見交換を行い進めていきたいと思っています。

問 旧スキー場跡地について

答 所有者と意見交換



▲自由に使える広い敷地が人気

問 賃貸借契約終了後の土地の返還は「原状復旧」と「現状有姿」のどちらですか。

答 町長

原状復旧です。

問 以前の試算で原状復旧費用は10億円程度と試算された記憶がありますが、いつの試算ですか。

答 町長

建造物をすべて撤去し、植栽もしたうえで費用ですが、平成20年頃（18年前）の試算で約10億円です。



さとう しんいちろう 議員
佐藤 新一郎



集会所に低い椅子が必要

負担軽減のため早急に対応

地域の集会所施設を利用する際、足腰に不安のある高齢者などには座面の低い椅子が大変便利です。早急な対応が求められます。



▲高齢者に配慮した施設へ

問 集会所施設などに関する要望や相談は、どのように把握し対応していますか。

答 町長

地域の集会所施設は公民館分館7、集落センター12、コミュニティセンター4の計23あります。管理する区長や分館長からは、その都度話を聞いて相談しながら対応しています。

問 高齢者など足腰の不自由な方も利用しやすいよう、各施設に座面の低い椅子を配備する考えは。

答 町長

利用しやすい施設の整備は必要だと認識しています。早急に対応したいと考えています。

問 バリアフリー化されている施設は何力所ありますか。

答 農林課長

トイレは安達集落センターを除いて、洋式への改修が済んでいます。玄関前のスロープは11、ステップは3、手すりは11カ所などを整備しています。



▲座面の低い椅子が必要

問 区長や分館長から年1回は聞き取りをしていたんだけどいいと思いますが。

答 農林課長

公民館で分館長会議を開催しているほか、行政区長会議を毎月実施しています。その際に要望の聞き取りなどをしていきたいと考えています。

問 現在の一般的な建物は段差のない構造のものがほとんどです。施設のバリアフリー化を早急に対応するべきと考えますが。

答 町長

質問を受けて各施設を点検したところ、いろいろ差がありました。より細かな部分にも対応していきたいと思えます。

問

物価高でも変更はないのか

答

可能な限り完成を目指す

川崎小学校改築検討委員会での話し合いを受けて、川崎中学校敷地及び周辺の場所建設する方針を打ち出しています。現在、建設資材不足や物価が上昇しているため、このままでは建設費の増大は免れません。

問 令和13年から15年に建設の目安ですが、この物価高でも変更はないのでしょうか。

答 教育長

町内小中学校の教育事情を第一として、可能な限りこの時期に完成を目指します。



▲中学校周辺をスクールゾーンとして

問 建設資材や人件費が高騰するなか、小学校の建設費はいくらになりますか。

答 教育長

国土交通省の学校建設費平均単価は、令和5年度から7年度にかけて1.27倍になっています。現時点で具体的な建設計画は定まっていなため、建設費をお示しすることはできません。

問 学校を建て替える場合、どれくらいの補助金が出て、町の負担は何%の負担になるのですか。

答 教育長

一般的に国の補助金は50%です。それに加えて、エネルギー資源を削減する建物や地域コミュニティと一体化した施設など、さまざまな条件によって補助が上乗せする場合があります。

問 教育長が広報紙で町内小中学校の今後について掲載しました。内容について町民の意見を聞く考えは。

答 町長

保護者を含めた各階層の代表が参加する検討委員会のなかで、川崎中学校敷地周辺での建て替え方針となりました。新たに会を設けて意見を聞くというよりも、今ある検討委員会で意見を重ねていきたいと考えています。

問 今回、新たに敷地を買い求めたい意向を示されましたが、購入について慎重に審議し、再検討すべきでは。

答 教育長

幼小中を一体的に集約するとすると、スクールバスから安全に乗降させる場所が必要です。また、将来的なまちづくりを見据え、スクールゾーンを生かしていくには必要だと考えています。



▲建て替えが待たれる小学校

総務民生常任委員会

調査日 5月18日

交通安全母の会・女性防火クラブ 若年層の参加促進を

調査事項①

【調査結果概要】

交通安全母の会は昭和51年、女性防火クラブ連合会は昭和56年に設立され、交通安全意識の向上、防火防災思想の普及を目的として活動しています。

令和8年度の会員数は、交通安全母の会が1970人、女性防火クラブが2072人となっており、地区によつては新規加入者の減少で、会員の確保が課題となっています。

交通安全母の会は、街頭指導や交通安全啓発活動、飲酒運転根絶大会への参加などを実施しています。女性防火クラブ連合会は、防災訓練、独居老人訪問、火災予防運動などを実施しています。



▲日常的な活動で安全意識向上へ

【委員会意見】

両団体は、長年にわたり地域の交通安全、防火防災活動を支えています。日常的な啓発活動や地域行事への参加を通じて、地域住民の安全意識の向上と連帯感の醸成に大きく貢献しています。

一方で、少子高齢化や地域コミュニティの

変化によつて、なり手不足や会員減少が顕在化しています。今後は、女性に限定しない組織への再編や、他組織との連携による効率化、若年層や子育て世代の参加促進など、活動の見える化や参加しやすい仕組みづくりに取り組んでください。

国保川崎病院の施設管理 持続可能な施設管理を

調査事項②

【調査結果概要】

国保川崎病院は築31年を経過していますが、建物本体に不良はなく、現在は設備機器を中心に計画的更新が進められています。

令和6年度は修繕費・機器保守等委託料が約4280万円で、維持管理費は増加傾向です。また、冷温水発生機などは更新したものの、タンクや自動制御装置など更新時期を迎える設備が多い現状です。

電子カルテシステムやCT装置などの高額医療機器は、交付金や企業債などを活用しながら更新しています。

一方で建物付属設備や空調設備など耐用年数を超過している設備も多く、更新対応が必要な状況です。



▲計画的な更新を

【委員会意見】

国保川崎病院は地域医療拠点として重要な役割を果たしています。冷暖房設備や電子カルテなどを計画的に更新していることは、安全な医療提供体制維持の観点からも重要です。

空調・自動制御・電気設備などが更新時期のため、修繕費と維持管理費の増加が懸念されます。人口減少や医療需要変化を踏まえ、従来の運用に捉われず、病院機能の在り方の検討を進めてください。

今後も町民が安心して医療を受けられるよう、計画的かつ持続可能な施設管理体制を構築してください。

産業建設教育常任委員会

調査日 5月14日

学校建て替えの状況 教育制度の方針が先決

調査事項①

【調査結果概要】

「川崎小学校改築に係る基本的な考え」として、①場所を川崎中敷地内。②主体構造を鉄筋コンクリート複層階建て、内装に町産木材活用。③教育制度は小中一貫教育導入も検討。④関連施設（中学校・給食調理場・図書室・児童教室）の一体的整備も検討。⑤完成時期目安は川崎小が令和13～15年度、川崎中が令和15～18年度。当該地に幼小中の施設を集約したスクールゾーンを考えています。

ただし、各施設を配置した場合、手狭感が生じるため、駐車場やスクールバス乗降場等のほか将来的な利活用も見込み、周辺の土地取得を検討しています。



▲スクールゾーンに期待

【委員会意見】

現在の「学校建て替え」への取り組みは、関連施設等の一体的整備に向けて中学校周辺の土地取得を検討している状況です。スクールゾーンとして環境整備を進めていく上では必要であるとの意見や理解もあり、早期取得に向けて取り組んでください。

校舎建て替えについては、敷地内の配置も含め「教育制度」をどうするかを決めることが先決で、方針が決定した後に主体構造や関連施設等の検討を進めてください。

水道管老朽化対策 安定した水道事業の継続を

調査事項②

【調査結果概要】

町が管理している水道管は、「導水管」、「送・配水管」合わせて21万6890m（約217km）あります。一般的な耐用年数とされる40年を超えた管は老朽管とされます。令和6年度決算時の老朽管の総延長は1万8300m（18.3km）で、管路経年化率（耐用年数を超えた管路の割合）は8.4%となっています。

管は老朽管とされます。令和6年度決算時の老朽管の総延長は1万8300m（18.3km）で、管路経年化率（耐用年数を超えた管路の割合）は8.4%となっています。

事業を活用すること基本とし、現在、本砂金地区での管路更新工事を進めています。終了後は老朽管の更新とともに、緊急度や重要度を鑑みて管路の更新や施設の改修を行うこととしています。



▲老朽管の更新は必要不可欠

【委員会意見】

今後の更新工事は、物価高騰などの影響で遅れや費用の増額が心配です。そのような情勢ではあるものの、欠かさずこのできない重要なインフラであることから、老朽管の更新は必要不可欠です。しかし、人口減少による料金収入の減少が予想され、厳しい経営が余儀なくされます。

料金収入や管路の更新等を精査するとともに、適切な受益者負担の在り方も踏まえ、必要であれば平成13年6月以来となる料金改定を含め、安定した水道事業が継続できるよう検討してください。

みなさんの

「声も想いも」聴かせて

今回は、川崎町ゲートボール協会の2チーム「川内GB愛」「川崎フレンド」の皆さまからご意見を伺いました。



▲みんなで和気あいあい

ゲートボールを通して
高齢化やほかのスポーツの普及で参加人数が減少しており、対戦相手が少ない。
週2回ゲームを通してコミュニケーションを図っている。

ゲートボールは頭と体を使うスポーツで健康にも良い。
地元住民が減ってきて大変、若い人にも興味を持ってほしい。

議員の皆さんとも試合で交流したい。
旧川内小学校を利用してきょうこうしよう。

これからのまちづくり
町や議会に望むこと

生活改善センターが老朽化しています。椅子や机も古くて重いので改善してほしい。



今回いただいた貴重なご意見・ご要望は、町政へ反映できるよう尽力いたします。

◆川崎町ゲートボール協会

現在は6チーム33名が登録しており、年4回、大会を開催し親睦を深めています。日ごろの健康づくりのため、複数のチームが合同で練習するなど活動しています。



左から奥山富夫さん（川内二）、鈴木邦春さん（笹谷）
福島清一さん（川内三）、大宮静雄さん（前川東部）
吉澤省治さん（川内二）

政治のバランス

大本 治久 議員

日本の政治には、内政と外交のバランス、中央と地方、産業間のバランス、そして世代間のバランスの3つの視点が重要であり、それらを適切に実現していくことが必要であると説明されました。
今回の研修を通じ、政治にはさまざまな立場や地域のバランスを見極める視点が重要であることを改めて認識しました。

女性や若者が挑戦

眞幡 善次 議員

人口減少の原因の一つに東京一極集中があげられますが、その背景にはいろいろな要因があります。対策としては、少子化対策・子育て支援・結婚支援のほか、移住・定住を推進めることが必要です。地方議会においては少数意見を組み入れる観点からも、女性や若者が挑戦できる環境が必要です。
今回の研修で学んだことを町政発展のためにも議会に取り組んでいきたいと思っています。

人口減少時代の地方議会のあり方 1日目

宮城県町村議会議長会 議員講座

7月2日と3日、県自治会館で議員講座が行われ、当議会から10名が参加しました。
参加議員の報告から一部を紹介します。

これからの地方議会と地方議員 2日目

これからの地方創生

下斗米 麻子 議員

今回の研修は「これからの地方議会と地方議員」複合ストレス時代に期待されるスモールメリットを活かした町村議会・議員の役割の再定義に向けて」という具体的な副題のついた内容で、とても示唆に富むものだったと感じました。
これからの地方創生に向けての鍵がやはりそこにあることを再認識させられるとともに、励ましを受けたような気がしてうれしく思いました。

3つの役割

的場 要 議員

人口減少や少子高齢化、デジタル化など、今後も当町を取り巻く環境が大きく変化するなか、これからの地方議員には「先導役・伴走役・媒介役」という3つの役割が求められるということです。それぞれの強みを活かした協働のまちづくりを促進することも欠かせないとのことでした。
これまででも行政の監視役としては勿論、同様の役割を心掛けて活動してきましたが、講演内容を再確認し学びを深める機会となりました。



お知らせ

議会を傍聴してみませんか

議員は、議場でどんな発言をしているか。また、どんなまちづくりを考えているか、今後の町の方向性を直接聞くことができる良い機会です。ぜひお越しください。

※次回の会議は9月8日(火)~17日(木)
一般質問は9月9日(水)・10日(木)
午前10時、再開の予定です。

議会ライブ中継 配信中

(傍聴者は6月会議2人、ライブ中継は168アクセスでした。)

詳しくは、議会事務局まで

TEL(0224)84-2301

掲載写真を募集します

本紙の「町の風景」(裏表紙)に掲載する写真を町民の方より募集します。写真をご提供いただける方は、議会事務局までご連絡をお願いします。



※ご提供いただいた写真が必ず掲載となるものではありません。ご理解のうえでご提供願います。

※写真のタイトルは議会広聴・広報委員会で決定いたします。

町の風景



せせらぎに癒される散歩道

撮影場所: 北川河川公園(川崎病院裏)

撮影: 議会広聴・広報委員会

表紙の説明 「追いつけ追い越せ、勝負はこれから」

川崎小学校運動会にて

撮影 広報モニター 藤原 義信さん

議会映像配信



議会の様子をご覧ください。



発行: 川崎町議会
編集: 議会広聴・広報委員会

〒989-1592
宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁175番地1
TEL(0224)84-2301・FAX84-6789
E-mail: kawasaki2@town.kawasaki.miyagi.jp

印刷: 柳津田印刷